

特別合同研究シンポジウム

SAKATA TASUKU

坂田 祐

坂田 祐先生と祖父・白虎隊隊長日向内記の思想と行動

日頃、私共の活動に対しましては、温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、このほど、下記の要領にて「坂田祐研究班」・「キリスト教と日本の精神風土研究班」特別合同研究シンポジウムを開催することになりました。つきましては、当シンポジウムの趣旨・内容を何卒ご理解賜り、ご来聴いただければ幸いに存じます。

2011年3月4日（金曜日）午後3時～
フォーサイト 21 10階（中会議室）

パネリスト：会津白虎隊記念館館長 **早川広中**

元中央大学教授・元会津若松市長

会津郷土史家 **富田国衛**

『会津戊辰戦争 戸ノ口原の戦い一日向内記と白虎隊の真相』2009年度 民報出版文化賞受賞

直木賞作家 **中村彰彦**

受賞作品「二つの山河」・1994年

コメンテーター：関東学院大学文学部教授 **富岡幸一郎**

キリスト教と文化研究所「キリスト教と日本の精神風土研究」代表

坂田祐先生は、自伝『恩寵の生涯』のなかで、祖父である白虎隊隊長「日向内記」が少年隊員を置いて逃亡したという白虎隊記念館での案内（放送）を聴き「いたたまれない気持ちになった」と書かれています。当シンポジウムでは、白虎隊記念館館長の早川広中氏、会津郷土史家の富田国衛氏、直木賞作家の中村彰彦氏をお迎えし、日向隊長の思想と行動に迫りたく思っています。

坂田祐先生への外部評価につきまして、一昨年、坂田祐先生が青年時代を過ごされた足尾銅山の再評価が進み（世界遺産への登録申請・坂田先生の祈念プレートが足尾銅山跡に設置されています）、私共も安堵しております。坂田先生は、その後「近衛騎兵連隊」に入られ、田中正造による天皇直訴の折には「馬上から驚き見下ろしていた」（坂田創先生談）とされます。なお、霞ヶ丘教会ピアノ調律士の中里氏奥様は足尾銅山の古川市兵衛の娘美代と木村長七（市兵衛の長男後見人・小野組支店長のち古川本店理事長）との間に生れた次男慶二の娘さんですので、市兵衛の曾孫にあたります。残されるのは、坂田祐先生が宿意とされていた会津白虎隊隊長・日向内記氏の逃亡説への再検討です。直木賞作家（歴史小説家）の中村さんはこれまで逃亡説ですので、今回のシンポジウムは、関東学院にとっても重要な意味合いをもっていきます。何卒、事情ご賢察の上、ご参集の高配を賜りますようお願い申し上げます。次第です。

